



AET1

Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part IB

Tuesday 5 June, 13.30 to 16.30

Paper J5

Modern Japanese texts 2

Answer **all** sections.

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

None

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

SECTION A

(1) Translate the following passage from an **unseen** text into **English**.
[35 marks]

オルゴール

予定していたよりも仕事は早く終わった。

関東北部の小さな町に住む担当の小説家を、私は訪ねて来たのだった。打ち合わせかたがたお酒でも、と最初は約束していた。ひねりの効いたミステリーを書く人で、デビュー作を読んですぐさま連絡して以来、担当をさせてもらっている。またたく間に売れっ子になり、どちらかといえば寡作^{かさく}ということも手伝って、その分野では次作の約束をとりつけることが難しい作家ベスト3に数えられている。ゆっくり飲んで、もしも電車がなくなったら駅前ビジネスホテルにでも泊まるつもりで来たのだが、飼っている猫が急病になったという電話が今朝がたあった。猫、私も昔実家にいるころ飼ってました。早く治るといいですね。次の小説には

取材は必要ですか。来年はこう、ほんと、書き下ろし長篇、行きましようよ。繰り上げた待ち合わせ時間にあわせて店に行き、小一時間ほどそんな話をしてから、そそくさと帰ってゆく小説家を、私は見送った。二時間以上も電車で揺られて来たにしては、あっけない打ち合わせだった。会社に帰ろうかどうしようか迷いながら駅まで歩いた。何もない町である。

「ほんとに、何もないんですよ、ここは」そういえば小説家はなんだか嬉しそうに、さっき、言っていた。

「そんなことはないでしょう」私が言うと、小説家はきっぱりと首を横に振った。「ないんですよ。ないのが、僕にとっては、いいことなんです」

なるほど、そうなんです。私は相槌を打った。東京生まれ東京育ちの私にはよくわからない感覚だと思ったが、むしろそんなことは口にしなかった。

JRの在来線の切符売場前には、何人かの男子学生がいた。なぜか全員白いシャツの下に黒っぽいTシャツを着て、シャツの胸元を広めに開いている。東京ではない感じの着こなした。このあたりのはやりなのかもしれない。しばらく見ているうちに、男の子たちが恰好よく見えてきた。

(TURN OVER)

Question 1 continued...

学生たちを見ながら、飼っている猫の話をしていたときの、いつくしみに満ちた小説家の表情を思い出した。なんだかうらやましかった。それほどいつくしまれる猫がうらやましいのか、それとも、それほどいつくしむ対象がいる小説家のことがうらやましいのか。

誰かを好きになりたいな。唐突に思った。

恋は、もうずいぶんしていなかった。たぶん、三年くらい。

KAWAKAMI HIROMI, 'Orugōru', *Zarazara* (Shinchōsha, 2011), pp. 86-89.

Vocabulary (question 1)

かたがた	～のついで
ひねりの効いた	full of twists
すぐさま	すぐ
～て以来	～てから
またたく間に	あっという間
寡作	unprolific
飼う	to have (a pet)
取材	research, gathering materials
ばんと	ちゃんとした
書き下ろし	newly written work
長篇	a long piece
繰り上げる	to move up (a date)
そそくさと	急いで
～にしては	considering / for
あっけない	disappointing
迷う	to hesitate
相槌を打つ	to throw in an appropriate word
在来線	[conventional JR line, which is not <i>shinkansen</i>]
胸元	the bosom
着こなし	manner of wearing clothes
はやり	fashion
いづくしみ	tenderness / love
表情	expression
うらやましい	jealous, envious
唐突	突然

(TURN OVER)

SECTION B

(2) Please read the **UNSEEN** text carefully and answer the following questions in **English** in as much detail as you can (content taken from the text only). [35 marks]

第四章

家族の寝方

ここまで、全体社会の構造と個人の日常生活の構造について述べてきたが、ここからは、日常生活の特定の側面に焦点を当てて、そこで展開されている諸個人の行為や相互作用にどのような構造（規則性）がみられるかを述べていこう。最初に取り上げるのは、私たちの日常生活のなかで誰もが長時間しているけれども、もっとも不活発な行為である「寝る」という行為である。

一 コーデイルとプラーズの研究

(1) 誰と誰が寝るか

いまから四十年ほど前、アメリカの心理学者ウィリアム・コーデイルと文化人類

Question 2 continued...

45 第四章 家族の寝方

核家族 (nuclear family)

両親と未婚の子供からなる家族のこと。元々は文化人類学者マードックの用語で、古今東西のすべての社会に普遍的に見られる社会単位であると考えたところから「核」家族と名づけられた。

学者デイビッド・ブラスが、東京・京都・松本の核家族を対象にして、家族の寝方（就寝形態）に関する調査を実施した。日本を訪れる西洋人の目には、家族全員（両親と子供）が一つの部屋に寝るというスタイルは奇妙なものに映りがちである。そしてその奇妙さは日本の家屋の小ささと部屋数の少なさ、つまるところ経済的な貧しさのせいにされがちであった。しかし、コールドールとブラスはそうは考えなかった。二人は日本の家族が同じ一つの部屋で寝るのは家族のメンバー間の心理的な結びつきの強さの現われではないかと考えた。この仮説を検証するために二人は調査を行ったのである。

調査結果は、日本の家族は寝室として利用可能な部屋が複数ある場合でも、分散せずに、一つの部屋で寝る傾向があることを示すものだった。この事実からコールドールとブラスは次のような推論を行っている。第一に、日本の家族の寝方は家族内での世代差と性差をあいまいなものにする。個人の独立よりも家族のメンバーの相互依存を強調し、家族の凝集性を培うかわりに、セックス等を通じて夫婦の親密さが深まる可能性を阻害する傾向がある。第二に、独り寝が起りやすい年齢は日本人の自殺率が高い年齢と一致する。家族との一体感のなかで生きている日本人にとって、青年期と老年期の独り寝は孤独感と疎外感を抱かせ、彼らを自殺へと導く一つの要因となっている。

(TURN OVER)

(2) 見える構造と見えない構造

コーデイルとプラーズは家族の寝方という「目に見える構造」から家族関係という「目に見えない構造」を知ろうとした。二人が本当に知リたかったものは、日本の家族の心理的な構造である。つまり、家族のメンバー同士がどのような心理的距離を保ちながら一つの集団を形成しているのかを明らかにしたかったのである。しかし、人と人との心理的距離というものを直接に目で見ることができない。こういう場合、研究者は目に見えないものを目に見えるものに置き換えて測定しようとする。測定したいけれども直接には測定できないものを変数 (variable)、その変数を測定可能なように変換したものが指標 (index) である。コーデイルとプラーズは家族のメンバー間の心理的距離という変数を、就寝時における家族のメンバー間の空間的距離という指標を用いて測定しようとしたわけである。この視点は非常にユニークなものであった。事実、日本を代表する家族社会学者である森岡清美もこの視点を借りて家族の寝方の調査を行っている。

(3) 「誰の隣に誰が寝るか」という視点

しかし、コーデイルとプラーズの研究には、「誰の隣に誰が寝るか」という視点が欠けていた。彼らは「誰と誰が寝るか」という視点から調査を行い、日本の都市

Question 2 continued...

的な核家族では家族全員が同室就寝をする傾向が強いという事実を発見した。しかし、三人以上の人間が同室就寝をする場合、その並び方はいくつかのバリエーションがあるはずである。具体的には、誰が三人の真ん中に位置するのかという問題である。彼らの研究ではこの問題は無視されているが、同じく同室就寝ではあっても、真ん中に寝るのが母親（妻）であるか、父親（夫）であるか、子供であるかによって、家族の心理的關係は微妙に（あるいは大きく）異なるのではないか。同室就寝が圧倒的多数を占める日本の家族であるからこそ、同室就寝のなかでの配列のバリエーションを問題にすることに意味があるはずである。

ŌKUBO KŌJI: *Nichijō seikatsu no shakaigaku* 2008. 44-47.

(TURN OVER)

Question 2 continued....

Comprehension questions for question 2 (please make sure that you refer to the text only; a vocabulary list is on page 11):

- 1) Before Psychologist William Caudill and Anthropologist David Plath conducted the study which they published as 'Who sleeps by whom: parent-child involvement in urban Japanese families' (1966), what kind of behaviour by the Japanese did Westerners regard as strange? How did the Westerners explain this behaviour? **[3 marks]**
- 2) What was Caudill and Plath's hypothesis regarding this behaviour? **[5 marks]**
- 3) What were the results of their study? How did they interpret these results? **[9 marks]**
- 4) Please describe Caudill and Plath's research methodology. **[5 marks]**
- 5) What are the shortcomings of Caudill and Plath's study according to the author? **[9 marks]**
- 6) What does 'nuclear family' mean (according to the headnotes)? **[4 marks]**

Vocabulary (question 2)

活発な	energetic, lively, active
行為	activity
就寝	going to bed
奇妙	peculiar
つまるところ	after all; in the end
検証	testing, verification
分散	dispersion
推論	extrapolation, reasoning
依存	reliance, dependence
強調する	emphasise
凝集性	cohesiveness, cohesive property
培う	foster, cultivate
阻害	obstruction, impediment
一体感	sense of unity, feeling of identification
孤独	solitude, lonesomeness
疎外	estrangle, disaffect, alienate
測定	observation, counting, measurement
配列	arrangement, layout, disposition
森岡清美	Morioka Kiyomi
真ん中	in the middle
配列	arrangement, sequence, layout,
マードック	George P. Murdock
古今東西	昔と現在、東と西

(TURN OVER)

SECTION C

(3) Translate **ONE** of the two following passages from **seen** texts into English. [30 marks]

Passage A

こんな夢を見た。
腕組みをして枕もとに座っていると、あお向きに寝た女が、静かな声でもう死にますと言う。女は長い髪を枕に敷いて、輪郭の柔らかなうりざね顔をその中に横たえている。真っ白な頬の底に温かい血の色がほどよく差して、唇の色はむろん赤い。とうてい死にそうには見えない。しかし女は静かな声で、もう死にますとはつきり言った。自分もたしかにこれは死ぬなと思った。そこで、そうかね、もう死ぬのかね、と上からのぞき込むようにしてきいてみた。死にますとも、と言いながら、女はぱつちりと目を開けた。大きな潤いのある目で、長いまつ毛に包まれた中は、ただ一面に真っ黒であった。その真っ黒な瞳の奥に、自分の姿が鮮やかに浮かんでいる。

NATSUME SŌSEKI, *Yume jūya*.

Question 3 continued...

Passage B

内供が鼻を持てあました理由は二つある。——一つは實際的に、鼻の長いのが不便だったからである。だいいち飯を食うときにも独りでは食えない。独りで食えば、鼻の先が鉢⑤の中の飯へ届いてしまう。そこで内供は弟子の一人を膳の向こうへ座らせて、飯を食う間中、広さ一寸長さ二尺ばかりの板で、鼻を持ち上げていてもらうことにした。しかしこうして飯を食うということは、持ち上げている弟子にとっても、持ち上げられている内供にとっても、決して容易なことではない。一度この弟子の代わりをした中童子⑦が、くさめをした拍子に手が震えて、鼻を粥の中へ落とした話は、当時京都まで喧伝⑧された。——けれどもこれは内供にとって、決して鼻を苦に病んだ主な理由ではない。内供は実にこの鼻によって傷つけられる自尊心のために苦しんだのである。

AKUTAGAWA RYŪNOSUKE, *Hana*.

END OF PAPER

Page 13 of 13